

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育方針 豊かな情操と気品ある人格を育み、 これからの社会を支える 健全な精神を持つ若者を育成する。 「情操」とは 美しいものや優れたものに対して素直に感動できる心。相手の良い所に気づき、相手を敬う事が出来る力。 「気品」とは 落ち着いた振舞い、優しい気持ちで、人と接することのできる精神的な美しさ。	夕陽丘教育の4つの柱 1. 一人ひとりの進路希望を実現できる学力を身に付ける学校 2. 自ら考え、行動できるように自主・自律の心を養う学校 3. 国際交流体験を通して自己発見と他者理解を深める学校 4. 国内最高レベルの音楽教育を推進する学校
--	--

2 中期的目標

■ 夕陽丘 111 年の歴史と伝統を生かし、地域に貢献する人材を育成する。 ■ 全ての教育活動にグローバル人材の育成、自主・自律の観点を取り入れる。
1. 「進路希望実現」に関する中期的目標 (1) 次期学習指導要領を見据えたカリキュラムマネジメントを確立し、「確かな学力」を育成する。 ① 総合的な学習の時間「夕陽学」を軸に、各教科・教育活動の見える化を図る。 ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組む。 ③ 指導教諭を中心に、「生徒に身に付いた力」の評価方法について研究する。 (2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路目標を明確にし、実現につなげる。(平成 29 年度 学校経営推進費事業において取り組む) ④ 各学年の生徒に応じた進路の取組を行う。：スケジュールの早期提供、模試の事前・事後指導、志望理由書の作成 ：志望校決定率 70%以上、国公立・関西5私大（関関同立近大）200名合格
2. 「自主・自律」に関する中期的目標 (1) 基本的生活習慣を確立し、学業及び行事に主体的・協働的に取り組む。 ⑤ 家庭学習の時間を平日1時間以上、休日3時間以上とする。(生徒に決めさせては?) ⑥ 基本的な生活習慣を確立し、学習習慣につなげる。遅刻総数700以下 ⑦ 自治会がリードして、行事・部活動に主体的・協働的に取り組む：自己診断90%維持 (2) 学校、保護者、地域が一体となって安心安全で温もりのある学校・街づくりに参画する。 ⑧ 「こころの再生」にかかるあいさつ、学校・地域のクリーンアップ、高齢者施設、病院との交流活動を行う。 ⑨ 教育相談・支援体制を確立し、学校全体での情報共有・合理的配慮に基づいた支援を一層推進する。 ⑩ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、疑わしい事案を含め相談できる体制を確立する。 ⑪ 防犯・防災体制を日常化し、安心安全な教育環境を整える。
3. 「国際理解教育」に関する中期的目標（平成 29 年度 学校経営推進費事業において取り組む） (1) 海外研修を通じて、多様性を理解するとともに、自身のキャリアデザインを考える。 ⑫ 海外修学旅行、ニューヨーク語学研修、ウィーン音楽研修を継続、ベトナムフィールドワークを新規企画する。 ⑬ グローバルに使える力として英語運用能力を身に付ける。 ：GTECSスコア H30：500、英検合格率：受験者の35% (2) 国内にいながらにして国際交流を体験できるような様々な機会を提供する。 ⑭ 海外からの学校訪問や留学生を積極的に受け入れ、双方にとって有効な国際交流を展開する。 ：姉妹校：クラークスタウン高校（アメリカ・ニューヨーク）、鳳新高級中学（台湾） ⑮ 生徒国際交流委員会の定期開催、国際交流新聞の定期発行等、国際交流の活動を学校全体で計画的に行う。
4. 「国内最高の音楽教育」に関する中期的目標 (1) 国や府の推進事業等を積極的に活用し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座を実施する。 ⑯ 国際舞台で活躍することを意識した特別レッスン、特別公開講座を取り入れる。 ⑰ 一流の指揮者を招聘して、NHK大阪ホールでの定期演奏会を継続する。 (2) 生徒の企画運営による学内演奏会やアウトリーチ活動を展開する。 ⑱ 校内のヴィオーラホールを活用して、また、近隣病院・小学校、地域での音楽会を実施する。 (3) 国内及び海外の大学・音楽学校と連携し、交流や短期留学を促進する。 ⑲ 大阪教育大学、大阪芸術大学、台湾、オーストリア、ハワイの学校と交流を継続する。
※ 上の1.～4.を含む学校の取組を「届けたい人に届く」広報の在り方を検討する。：中学生対象の説明会、Web ページ、掲示板、学校通信

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 29 年 10 月実施分〕	学校協議会からの意見
肯定的回答率で 80%以上を占めるものが、生徒は 19 項目中 16 項目、保護者は 19 項目中 15 項目あり、概ね評価されているところです。 具体の項目では、ここ数年継続して力を入れた「授業の充実」について、生徒 5.5pt、保護者 8pt 向上しました。年 2 回の公開授業月間、全教職員による授業見学及び研究協議など、生徒の「主体的な学び」をめざした授業スタイルを研究した成果と考えます。 「進路実現」に関する項目は、すべての項目でポイントが上がり、「進路情報」を適時に伝達し、「模試の振返り」等、事後指導を徹底したことによるといえます。 「人権教育・教育相談」についても同様で、生徒に寄り添った指導ができてきたと考えます。新規項目の「いじめへの対応」は生徒 85%、保護者 88%であり、今後も日々の生徒の様子を把握して、保護者の皆様と連携しながら、いじめの未然防止に努めていきたいと考えます。 本校の特色である「国際交流」は生徒 90%を越えており、海外修学旅行、姉妹校（台湾鳳新高級中学・ニューヨーククラークスタウン北高校）との相互交流、新規ベトナムへのフィールドワーク、留学生の受入れなど、これまでの活動を継続・深化できていることが評価されています。 自由記述では、「電子黒板を活用して授業がわかりやすい」「スクリーンを設置し見やすくなった」との声があった他、「特別教室にもプロジェクターを設置して欲しい」との要望を受け、順次設置したところです。また、これまでから強く要望があったグラウンド・テニスコートなどの整備について、全クラブ員による大掃除において、出来る範囲の改善を行い、2 月には、業者によるグラウンド整地を行う予定です。今後も生徒、保護者の皆様、教職員、卒業生が一体となり、「オール夕陽」でより良い環境づくりを進めていきたいと考えます。 （※学校教育自己診断の詳細は本校 Web ページでご覧いただけます。）	第1回（5月25日）の協議 ○校内の学校説明会について ・中学生の保護者にとって、私立を含めて進学先を検討する <u>1 月に学校説明会があると有り難い。</u> ○カリキュラムマネジメントについて ・教科の指導内容の「見える化」については是非されるとよい。さらに、出したデータを積極的に使うことを意識し、<u>来年度のプランに生かせる</u>といい。 ○ＩＣＴの活用について ・教員がうまく使えるようになるのはもちろん、<u>生徒がうまく使えるようになる</u>と、学校教育の質が上がり、学校の特色となるのではないかと。 ・教員がＩＣＴを使って<u>短時間で上手く説明</u>を行い、<u>生徒が考えて動く授業</u>をつくる必要がある。 ○その他 ・様々な取り組みをされる中で<u>グローバル色が強まってきた印象</u>である。 ・教員が多忙と言われている中で、これだけ新しいことに挑戦しているのはいいことである。 ・生徒の笑顔があるから頑張れるという現職の感覚は、保護者としてとても嬉しい。 第 2 回（10月18日）の協議 ○授業参観について ・電子黒板の活用は図やグラフの提示（数学）、教材に音を入れる（英語）等効果的活用がなされており、生徒が積極的に授業参加しており、理解しやすく非常に有効だと感じた。<u>今後パソコンやスライドから離れられないことは避けるよう留意する。</u> ○総合的な学習の時間「夕陽学」の取組について ・「<u>他者への伝え方</u>」、「<u>伝える力</u>」を考えることができ、等将来役立つスキルを身に付けられる。 ・夕陽生の興味、関心の高さが感じられた。将来を見据えて自分たちに必要なスキルを磨きたいという意識が高く、夕陽学がより意味をもつものになっている。 ・研究発表前の生徒の「決意表明」が面白い。気持ちが引き締まる。 ・この取り組みによって自分の<u>学校に愛着</u>が持てる。 ○授業アンケート結果について ・<u>アンケート項目 5 「視聴覚教材を使用する場面がある」の質問内容を改善してはどうか。</u> ○その他 ・環境整備で掲示物が廊下に関してはにぎやかでまとまりがあり、生徒のニーズに合う掲示が揃っている。教室では非常にシンプルで勉強に集中できる環境である。 第 3 回（1月31日）の協議 ○平成30年度の学校経営計画について ・「グローバル市民」は「グローバル社会の構成員」という広い意と考えるが、「<u>グローバル人材</u>」や「<u>グローバルリーダー</u>」にしてはどうか。 ○学校教育自己診断について ・教員が授業改善に積極的に取り組んだ結果として、授業に対する評価の数値が高くなっている。 ・<u>いじめをなかなか言えない子どもがいた場合に備え、周りから管理や監督をしていってほしい。</u> ・夕陽丘高校全体の風通しが良くなったと感じている。生徒も明るくまとまっており、いじめが起きにくい環境と考える。 ○校則について ・入学当初から保護者も交えた場で校則の説明があり、生徒も理解しており、現状の校則について、一定の理解を得られている。 ・<u>自主・自律の観点から自らの成長を促すような指導も有効である。</u> ○校務による教員の負担について ・<u>業務の改善について話し合ったり、ストレスがあれば、その内容や種類を把握・分析したりする機会を持つてはどうか。</u>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路希望実現	(1) 次期学習指導要領を見据えたカリキュラムマネジメントを確立し、「確かな学力」を育成する。 (H28 学校経営推進費事業) (2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路目標を明確にし、実現につなげる。	① 総合的な学習の時間「夕陽学」を軸に、各教科・教育活動の見える化を図る。 ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組む。 ③ 指導教諭を中心に、府の教育課程説明会や教育センター主催の研修などを受け還元研修を実施したり、「生徒に身に付いた力」の評価方法について研究したりする。 ④ 各学年の生徒に応じた進路の取組を行う。：スケジュールの早期提供、模試の事前・事後指導、志望理由書の作成	① シラバスを活用し、総合・教科の学習活動がわかる一覧表を作成 ② 全ての教科で問題解決型学習の実施、ＩＣＴ活用好事例共有、授業アンケート平均3.2以上（H28:3.26）、大教大「学び舎」等外部研修への参加 ③ 還元研修：全教科1回以上 ④ 進路講座実施回数H28維持、志望校決定率7割以上（H28:7割）、国公立・関西5私大（関関同立近大）200名合格（H28:219名）	①1・2年で完成（○） ②全教科で実施、パッケージ研修・公開授業月間（年2回）にＩＣＴの活用事例共有し、各教科で好事例集を作成中、授業アンケート平均3.38、大教大「学び舎」7名、教務研2名、ＡＬ4名参加(◎) ③各教科・分掌で実施（○） ④実施27回、志望校決定率6割、国公立・関西5私大341名（○）
2 自主・自律	(1) 基本的生活習慣を確立し、学業及び行事に主体的・協働的に取り組む。 (2) 学校、保護者、地域が一体となって安心安全で温もりのある学校・街づくりに参画する。	⑤ 授業以外の学習時間を確保する。 ⑥ 基本的な生活習慣を確立し、学習習慣につなげる。 ⑦ 自治会がリードして、行事・部活動に主体的・協働的に取り組む ⑧ 「こころの再生」にかかるあいさつ、学校・地域のクリーンアップ、高齢者施設、病院との交流活動を行う。 ⑨ 教育相談・支援体制を示す組織図を作成し、学校全体での情報共有・合理的配慮に基づく支援をする。 ⑩ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、疑わしい事案を含め相談できる体制を確立する。 ⑪ 防犯・防災体制を日常化し、避難所運営を含む危機管理マニュアルを改訂するなど、安心安全な教育環境を整える。	⑤ 学習状況調査 H28以上（H28:平日65分、休日100分） ⑥ 遅刻総数700以下（H28:807）、遅刻撲滅スタンプラリー実施 ⑦ リーダー研修実施、自己診断90%以上維持（H28:95.3%） ⑧ あいさつ週間の設定、自己診断80%以上（H28:86.3%）、活動回数10回以上（H28:7回） ⑨ 前期末までに完成 ⑩ 自己診断 教職員80%以上（H28:86.4%） ⑪ 5月中に完成、随時見直し	⑤平日69分・休日112分（○） ⑥814回（△） ⑦リーダー研修（7/20）、自己診断92.6%（○） ⑧考查前に実施 自己診断91.1%活動回数14回（◎） ⑨7月に完成し、組織図に基づき支援（○） ⑩自己診断：教育相談体制・いじめへの迅速な対応ともに90.0%（◎） ⑪防災士と連携し5月完成、実践型避難訓練・避難所運営研修を実施、保体課の防災研修で実践発表(◎)
3 国際理解教育	(1) YGR（*1）と連携し、海外研修を通じて、多様性を理解するとともに、自身のキャリアデザインを考える。 (H28 学校経営推進費事業) (2) YGRと連携し、国内にいながらにして国際交流を体験できるような様々な機会を提供する。 (H28 学校経営推進費事業)	⑫ 海外修学旅行、ベトナムフィールドワークを新規企画・実施する。 ⑬ グローバルに使える力として英語運用能力・多様性を身に付ける。 ⑭ 海外からの学校訪問や留学生を積極的に受け入れ、双方にとって有効な国際交流を展開する。 ⑮ 生徒国際交流委員会の定期開催、国際交流新聞の定期発行等、国際交流の活動を学校全体で計画的に行う。	⑫ 事後アンケートの肯定意見90%以上 ⑬ GTECスコア（生徒の8割）：475、（H28:469）、英検2級合格率：受験者の35%（H28:41%）、講座回数：各学年1回以上 ⑭ 留学生の受け入れ数（H28:8名）、交流回数（H28:4回）、自己診断85%以上（H28:86.2%） ⑮ 生徒国際交流委員会年6回実施、国際交流新聞3回発行、大阪文化発信マップの充実	⑫修学旅行肯定94.0%、ベトナムフィールドワーク100%（◎） ⑬GTEC:488、英検2級24%合格者58名（H28:30名）講座：1年3回、2年1回、3年1回（○） ⑭留学生6名（アメリカ2・中国・ノルウェー・オーストラリア・スイス各1名）、交流3回（台湾2校、米国1団体）、自己診断90.6%（○） ⑮委員会6回、新聞3回、夕陽学で日本語・英語版作成、交流で活用（○）
4 国内最高の音楽教育	(1) 国や府の推進事業等を積極的に活用し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座を実施する。 (2) 生徒の企画運営による学内演奏会やアウリーチ活動を展開する。 (3) 国内及び海外の大学・音楽学校と連携し、交流や短期留学を促進する。	⑯ 国際舞台で活躍することを意識した特別レッスン、特別公開講座を取り入れる。 ⑰ 一流の指揮者を招聘して、NHK大阪ホールでの定期演奏会を継続する。 ⑱ 校内のヴィオーラホールを活用して、また、近隣病院・小学校、地域での音楽会を実施する。 ⑲ 大阪教育大学、大阪芸術大学、台湾、オーストリア、ハワイの学校と交流を継続する。	⑯ 特別レッスン・公開講座の満足度100%（H28:100%）、外国語によるレッスン実施 ⑰ 事後アンケートの満足度100%（H28:100%） ⑱ 校内、近隣病院・小学校、地域での音楽会の実施回数（H28:9回） ⑲ 年間5回以上	⑯レッスン15回 講座7回:満足度100%、外国語レッスン1回（○） ⑰満足度100%（○）H30シンフォニーホールで実施 ⑱年間6回実施（校内2回、校外4回）（○） ⑲5回：大阪教育大学、台湾、ハワイと交流 プロのオーケストラ関西フィルハーモニーと共演（◎）
※広報	広報の在り方を検討する。	⑳ 学校の取組を「届けたい人に届く」「希望する人に届く」形にする。：動画作成、Web ページ、掲示板、学校通信の見直し	⑳ 中学生対象説明会の本校生徒の参加数100名以上、動画7月中完成、掲示板月1回更新	⑳生徒の参加数230名、動画7月完成、掲示板月1回更新（◎）

* 1 YGR…Yuhigaoka Global Revolution グローバル市民の育成を期して行う学校全体の取組及び委員会